体育授業において生徒に主体性を育む授業づくり
－　ICT機器の活用を通して　－

学籍番号　199306
氏　　名　梅垣仁志
主指導教員　井上功一

1．はじめに

1.1 研究背景と目的

中央教育審議会（2016）では，「習得した知識や技能を活用して問題解決することや，学習したことを相手にわかりやすく伝えること等」，「健康課題を発見し，主体的に課題解決に取り組む学習が不十分であり，社会の変化に伴う新たな健康課題に対応した教育が必要」ということを課題として挙げた．安倍（2018）は，森川(1984)と内海(1989)の意見を踏まえて，「「主体的に学ぶ」ことにとどまるのではなく，「スポーツの主人公」となることに繋がる「主体者形成」が求められている」と述べている．これらを踏まえて本実践研究の目的は，体育科の授業において生徒に主体性を育むことである．また，効率的なICT機器の活用方法を模索し，実際に授業の中で活用することによってその可能性を検討する．

1.2 本研究における主体性の定義

田畑(2016)は主体性を【能動的な認知・情意・行動】であると述べている.これらを受け,本研究では田畑が行った概念分析を基に主体性を定義づける.その中で【子どもの発達・情意・体験】と【周囲の大人の働きかけ】が主体性を育む上で重要な要因になると考える.それを踏まえて,本研究ではさらに体育科の授業に合わせて【能動的な認知・情意・行動】の状態を以下のように細分化した.

2. 研究方法

2.1 調査対象と分析方法

基本学校実習Ⅰに実施した期間記録法の対象者はI中学校1年生,計144名である.発展課題実習ではアンケート調査を行った.対象者はI中学校2年生,計145名である.アンケート調査については回答者の内訳は2年A,C組の計73名,2年B,D組の計72名であった.このうち,アンケート実施日のいずれかに欠席していた16名分の標本を除外し,有効回答を129とした.アンケート用紙には髙田・岡沢ら(2000)が開発した授業評価尺度を使用する.また,ワークシートやゲームの様相などにも着目して分析を行った.

3. 実習校での実践

基本学校実習では，授業内の教師の発言に対する生徒の影響についての分析するために期間

記録法を活用した. そこで, 生徒が主体的に取り組むことができるような言葉がけや発問, 要因について分析を行った.

発展課題実習では,中学校 2 年生を対象にハンドボールの授業を行った.単元前後でアンケート調査を行うだけでなく,授業のワークシートや資料にも工夫し,生徒にプラスの影響を与えるように意識して実践を行った.また,前半のクラスと後半のクラスの授業の進め方にも変化をつけることでどのような影響を与えるのかということも調査した.

4. 評価・分析

4.1 期間記録法の結果と考察

授業を計画する段階で「マネジメント」と「学習指導」の時間をできるだけ端的に行い,「運動学習」の割合を大きくすることはもちろんのこと,「認知的学習」の割合も大きくすることが大切である.また小単元ごとに目標を設定し,生徒がそれらを解決できるような授業展開が生徒の主体的な態度を育ませる上で必要であることが明らかになった.

生徒が主体的に取り組む要因については,教師の言葉がけやフィードバックが大きな影響をもたらしたと推測された.

4.2 アンケート調査の結果と考察

単元構成として授業の前半クラスと後半クラスの展開を変化させた. 前半クラスではタスクゲームを中心に行い, 後半クラスではシュート練習とゲームを中心に行った. 前半クラスでは情意目標に対する“たのしむ”が後半クラスより高くなり, 逆に後半クラスでは, それ以外の因子項目が前半クラスより高くなった. それぞれの変化について考察すると, 前半クラスではタスクゲームを多く取り入れることで様々なルールでゲームを楽しむことができたという理由が考えられる. 後半クラスでは, 授業の流れがわかりやすく, 自分たちの目標に向かって道筋を立てて取り組むことができたのではないかと考える.

5. まとめ

アンケート調査の結果と生徒のワークシートの記述から,今回行った単元計画の策定,教師の活動と支援は生徒が主体的に課題に取り組む上で有効であることが示唆された.これを踏まえて生徒が主体的に授業に取り組むようにするためには,単にグループ活動を取り入れるのではなく,教師の介入もありながら助言やフィードバック,発問を与えることにより,生徒一人ひとりが授業の「主人公」になれるようにすることが必要であること明らかになった.また,課題などは全体に共有することによって意見を交流する機会が増え,全員で取り組む姿勢というのも見られたため,それらが簡易的にできる ICT 機器の活用も有効的であったと見受けられた.ゲームの様相やワークシートの記述から本研究で定義した主体性を育むことができたのではないかと考える.

課題として,本研究のアンケート調査では単元前後であまり変化が見られなかったことである.それを踏まえて,より生徒が実感として楽しむことができることや成功体験を増やすような授業展開を検討することを今後の研究としたい.